

映画 & 音楽 PART I

1、タラのテーマ 映画タイトル「風と共に去りぬ」1939作品

監督：ビクター・フレミング 音楽：マックス・スタイナー
マーガレット・ミッ切尔の同名ベストセラーをビビアン・リーと
クラーク・ゲーブルの共演で映画化し、1940年・第12回アカデ
ミー賞で作品賞・監督賞・主演女優賞など10部門に輝いた不朽の
名作。

南北戦争前後のアメリカ南部を舞台に、炎のように激しく美しい女
性スカーレット・オハラの激動の半生を壮大なスケールで描く。
アメリカ南北戦争直前のある日、ジョージア州タラで、大園遊会が開か
れた。いつもパーティーの女王であったスカーレットは、その日、心に
決めていた男性アシュレーと彼のいとこのメラニーの婚約が発表されると
聞き怒り悲しんでいた。その夜、ついに南北戦争が勃発・・・。

2、別れのワルツ 映画タイトル 「哀愁」

監督：マーヴィン・ルロイ 音楽：マックス・スタイナー

第一次世界大戦下のロンドン。英国将校クローニンとバレエの踊り子マ
イラは、空襲警報が鳴り響くウォータールー橋で出会う。2人は瞬く間に
惹かれ合い、翌日には結婚の約束までも交わすほど、その恋は燃え上
がった。しかし、時代はそんな恋人たちを引き裂きクローニンは再び戦
場へ向かう。そして、健気に彼の帰りを待つマイラだが・・・。

「風と共に去りぬ」のヴィヴィアン・リーと「クオ・ヴァディス」のロ
バート・テイラーが共演。1953年制作の日本映画「君の名は」に登場
する数寄屋橋は本作に登場するウォータールー橋を元にしていると言わ
れています。

3、時の過行くまま 映画タイトル 「カサブランカ」

監督：マイケル・カーティス 音楽：マックス・スタイナー

ハンフリー・ボガードと英格リット・バーグマンの、これぞ大人の恋の
見本といった名作です。レストランの中で、黒人ピアニスト、ドーリー・
ウイルストンが歌い弾くシーンは、アメリカ映画音楽史上5指に入る名場
面だといわれてきました。何回もリバイバルヒットを記録していますが、
70年代に入ってニルソンが歌ったものも忘れない。1931年にハーマ
ン・ハブフェルドが作詞・作曲している。

4、第三の男 映画タイトル 「第三の男」

第二次世界大戦では不幸な運命を背負ったウィーンの街を想うとき、私たちの心に響くのがツィターの調べである。陽気さと愁いを合わせ持つ、その不思議な音色を世界中に伝えたのがツィター奏者、アントン・カラス作曲による「第三の男」のテーマ、別名「ハリー・ライムのテーマ」である。

戦後の混乱が続くウィーンを舞台に、そこに息づく人々をミステリアスに描いた傑作映画「第三の男」。どこか、ほのぼのとしたツィターの調べが、絶妙に重なりあうことによって、この映画に更なる深い魅力が生まれた。

5、愛のロマンス 映画タイトル 「禁じられた遊び」

戦争そのものを描かず、戦争の悲惨さ、馬鹿らしさを痛烈に批判した。映画史上不滅の名作です。ブリジット・フォッセの天才的な観るもの涙を誘い、戦争と言う不幸を人々に再認識させたものでした。

ギターは演奏曲の古典になっています。この作品は当時のあらゆる映画賞をかくとくしました。監督リネ・クレマン、音楽ナルシソ・イエペス、主演ブリジット・フォッセ。

6、ジェルソミーナ 映画タイトル 「道」

怪力自慢の大道芸人ザンパノが、白痴の女ジェルソミーナを奴隸として買った。男の粗暴な振る舞いにも逆らわず、彼女は一緒に旅回りを続ける。やがて、彼女を捨てたザンパノは、ある町で彼女の口ずさんでいた歌を耳にする.....。野卑な男が、僅かに残っていた人間性を蘇らせるまでを描いたフェリーニの作品。

7、エデンの東 映画タイトル 「エデンの東」

これぞアメリカ映画音楽最大の人気曲…少なくとも日本ではそんな印象があるほど長いことヒット・パレードの上位にランクされ続けた曲です。この映画では、それまでの社会には大人と子供しかいなかった。10代とは、大人になるためのあわただしい過渡期に過ぎないと見られていた。しかしジェームス・ディーンの演ずるジミーによって初めて、10代という世代のあることが世の中に示された。ジミーこそファスト・アメリカ・ティーンエイジャーなのだ。レナード・ローゼンマンの作曲。

8、慕情 映画タイトル 「慕情」

香港を舞台とした名作映画の主題歌「慕情」。1955年、アカデミー主題歌賞を受賞した当時から、数多くのアーティストがカバーし、今な

お歌い継がれている愛の名曲。サミー・フェインの甘くそして力強いメロディとウェブスターの恋することの幸せを高らかに歌い上げた品格のある詞。香港の街を見下ろす丘から吹く、恋の風を思わせるロマンティックなメロディ。

9、ベニスの恋 映画タイトル 「旅情」

オールドミスの女性が旅先で恋に落ちる……。ベニスに観光旅行にやつてきたアメリカ人のジェーン。深紅のベネチアングラスが縁でアンティーク・ショップの素敵な主人と知り合った彼女は、戸惑いながらも恋を体験していく。

10、鉄道員のテーマ 映画タイトル 「鉄道員」

「禁じられた遊び」と共に、ギターによる映画音楽の代表作。この2曲によって、ギターを弾く人が急増したことは、まぎれもない事実。ピエトロ・ジェルミ監督自身が演じるイタリア国鉄の機関士一家の生活を、末っ子のサンドロ少年のつぶらな瞳を通して描いています。小市民生活の哀歎と、ネヴォラ少年の無邪気な演技が人気をよびました。ジェルミの演じるパパはギターがうまく、ラストのクリスマス・イブにこの曲を弾きながら、脳溢血で突然他界してしまいます。作曲はいつもジェルミ監督とカルロ・ルステイケリ

11、追憶 映画タイトル 「追憶」

政治運動に没頭する大学生・ケイティーと、ハンサムなエリート学生・ハベルは、互いに気になる存在だった。大学卒業後、2人はそれぞれの道に進み、第2次世界大戦中のニューヨークで再会。愛し合い、結婚するが、幸せは長く続くことはなかった。

12、クワイ河マーチ 映画タイトル 「戦場にかかる橋」

第2次世界大戦下の1943年、ビルマとタイの国境付近にある捕虜収容所を舞台に、捕虜となったイギリス兵士と、彼らを利用して橋を造りたい日本軍人たちの対立と心の交流を描く。出演はウィリアム・ホールデン、アレック・ギネス、早川雪舟。57年度のアカデミー賞では作品賞、監督賞を含む7部門で受賞した。

13、魅惑のワルツ 映画タイトル 「扈下がりの情事」

初老のアメリカ人富豪、プレーボーイのゲリー・クーパーが、孫くらい年下のパリジェンヌ、オードリー・ヘップバーンと恋をする。

ビリー・ワイルダー監督らしいほのぼのとした大人のメルヘン映画でした。主題歌としてラヴ・シーンごとにジプシーバアイオリン集団によって演奏されたこの曲は、1904年にイタリアのフェルモ・ダンテ・マルケッティーが作曲した「ジプシーのワルツ」で、「魅惑のワルツ」の題名が有名です。

14、夏の日の恋 映画タイトル「避暑地の出来事」

爽やかなリズムにのったメロディが印象的な名曲邦題「夏の日の恋」。メイン州を舞台にした1959年の映画「避暑地の出来事」の主題歌として作られた。“恋人が希望、夢、愛を誓うところ、すべてがサマー・プレイス” そう歌われるこの曲は、イージー・リスニング・ミュージックを代表するパーシー・フェイス・オーケストラの大ヒット曲である。“熱い想いの恋人達がいるところすべてがサマー・プレイス。情熱あふれる時すべてが青春。” ロマンティックなメロディは私達にそうやさしく教えてくれる。

15、太陽がいっぱい 映画タイトル「太陽がいっぱい」

監督ルネ・クレーマン、音楽ニーノ・ロータ、主演モーリス・ネロ、アラン・ドロン。

真夏の太陽をいっぱいに受け、その空の青さ海の青さを誇る地中海に、せいねんの明と暗をクールに描き、主演したアラン・ドロンを一躍スターに押しやり、また意外なラスト・シーンで話題を集めました。主題かもなにか青年の不安定な心理にうまくマッチして、ベスト・ヒットになった。